

様式2-1 評価結果のまとめ

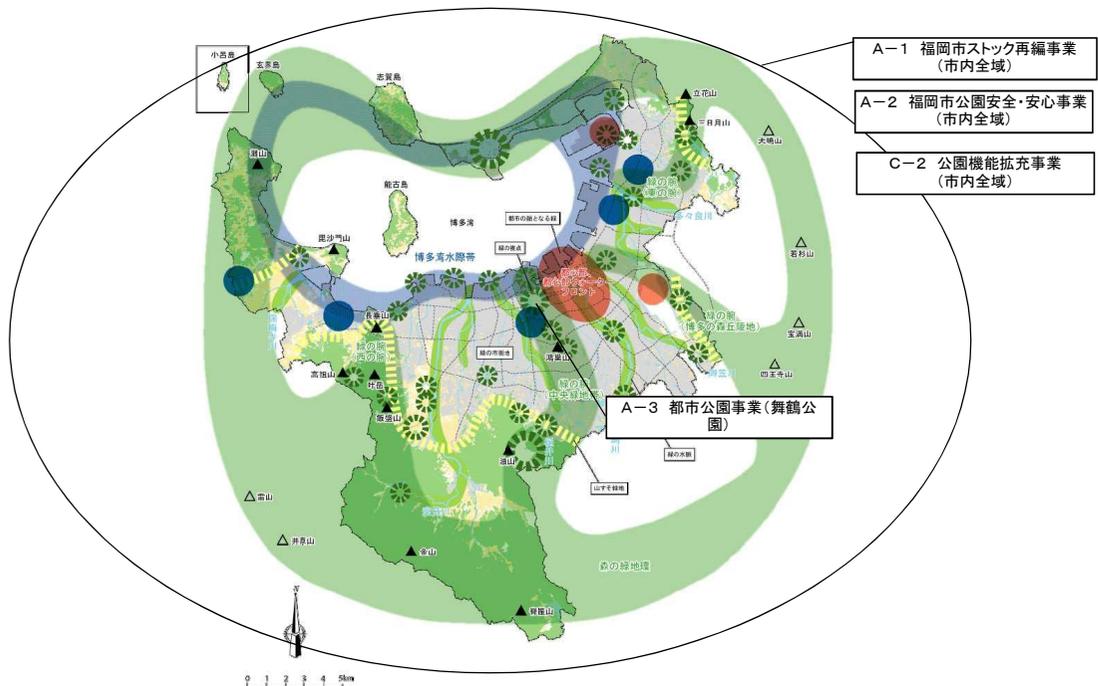
都道府県名	福岡県	市町村名	福岡市	計画の名称	身近な生活に潤いをもたらす緑づくり		
計画期間	平成31年度～令和4年度	事後評価実施時期	令和4年度	全体事業費	2,381百万円	国費率	1/2 1/3

		要素事業名					
1) 事業の実施状況	対象事業	A.基幹事業	○福岡市ストック再編事業 ○福岡市都市公園安全・安心対策事業 ○都市公園事業(舞鶴公園)				
		B.関連社会資本整備事業	-				
		C.効果促進事業	○都市公園・緑化等事業				
		その他関連する事業	-				
	進捗状況	A.基幹事業	要素事業名	事業内容(延長・面積等)	事業進捗(令和4年度末時点)	次期計画	
			○福岡市ストック再編事業	都市公園の用地取得、整備	一部完了	継続予定	
			○福岡市都市公園安全・安心対策事業	施設整備	一部完了	継続予定	
○都市公園事業(舞鶴公園)	舞鶴公園陸上競技場改修等		一部完了	継続予定			
B.関連社会資本整備事業							
C.効果促進事業	○都市公園・緑化等事業		緑化意識向上等のための啓発事業	一部完了	継続予定		
その他関連する事業							
2) 事業の効果発現状況	成果目標の達成状況 ※算定対象	指標名	当初現況値	目標値	実績値	結果の分析及び目標値と実績値に差が出た要因	
		身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	31%	51%	31%	市民の身近な公園が充足していない地域や市街地における緑化が十分でない地域もあり、目標値に達していない。	
		地域の公園に親しみを感じている市民の割合	64%	74%	69%	公園の再整備に加え、公園愛護会活動やコミュニティパーク事業等のソフト施策を促進した結果、当初より数値は上昇したが、目標値を達成できなかった。	
		過去3年間に舞鶴公園に行ったことがある市民の割合	59%	62%	56%	セントラルパーク構想の推進や舞鶴公園でのイベント開催件数の増加により、舞鶴公園への来訪者は増加傾向にあったものの、コロナ禍により直近の数値は減少してしまった。	
	成果目標以外の要素事業の効果発現状況 (定性的な効果)	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市ストック再編事業について、身近な公園を整備することにより、市民の休息、散歩、運動等総合的な利用に資する公共空間の創出。 都市公園事業(舞鶴公園)について、都心部の公園を整備することにより、良好な景観と都市環境の創出。 					
効果促進事業の効果発現状況 (定性的な効果)	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園・緑化等事業について、イベント開催による都市の賑わい創出。 						
3) その他	今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市ストック再編事業について、引き続き、みどりストックを有効活用し、市民が身近な公園に対して豊かな緑や親しみを感じられるよう、必要な公園整備を進めていく。 福岡市都市公園安全・安心対策事業について、引き続き、市民が公園を安全安心に使用することができるよう、必要な整備を進めてゆく。 都市公園事業(舞鶴公園)について、引き続き、セントラルパーク構想の推進を行う。 					

様式2-2 計画の概要

「身近な生活に潤いをもたらす緑づくり」の成果概要

事業の目的	成果指標	当初現況地	目標値	実績値 (R3年度)
本市の「緑」に関する総合計画である「福岡市新・緑の基本計画」(平成21年5月策定)、および、これまでに蓄積した「ストック」を活かす視点を加えた「福岡市みどり経営方針」を着実に推進するため、供用後年数の経過や、周辺環境などの変化に伴い、地域のニーズに対応できなくなった公園などの「みどりストック」について、地域のニーズを踏まえてリニューアルなどすることで、地域活動の拠点としての利活用を図り、市民が身近な緑や公園に親しみを持てるまちづくりを進める。 また、セントラルパーク構想を進める舞鶴公園においては、市民ニーズの高いスポーツ施設などの整備を通して、市民の憩いの場としての公園作りを推進する。	①身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	31%	51%	31%
	②地域の公園に親しみを感じている市民の割合	64%	74%	69%
	③過去3年間に舞鶴公園に行ったことがある市民の割合	59%	62%	56%



主な事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画においては、主に地元住民のニーズに合わせた身近な公園の再整備や、安全・安心対策事業を推進することができた。身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合は増加させることはできなかったが、身近な公園の緑が豊かであると感じる市民の割合が増加していることから、公園整備による一定の成果を出すことができた。 ・ワークショップ等を開催し、地域ニーズを反映させながら整備を行っていることから、地域の公園に親しみを感じる市民の割合を増加させることができた。 ・セントラルパーク構想を進める舞鶴公園においては、市民ニーズの高いスポーツ施設などの整備を通して、市民の憩いの場としての公園作りを推進することができた。また、「過去3年間に舞鶴公園に行ったことがある市民の割合」はコロナウイルス感染症の流行が原因で減少したと考えられる。
--------	--